

研究結果報告書

近代日本による中国新聞調査に関する資料の収集と研究

所属：復旦大学 国際文化交流学院

役職：准教授

氏名：許 金生

本研究は先行研究を踏まえて、1937年を下限に、日本の外務省外交資料館、防衛庁防衛研究所、国会図書館を中心に、各機関や大学に所蔵されている第一次史料を利用して、近代中国に於ける日本の新聞調査活動をめぐり、その調査の主体、動機、目的、内容、過程、時間と地理的な範囲、結果を明らかにし、調査活動の全貌の解明に努めた。それにより、次の事実を把握している。

近代中国における日本の新聞調査は主に外務省と軍部により行われてきた。

情報収集のため、外務省は明治初期から中国に於ける新聞調査活動を既に断片的に開始していたが、義和団運動以後、対中宣伝戦を前提に、外務省の在華外交機関が更なる調査活動を展開していた。それは臨時調査と定期調査に分けられ、前者は各外交機関による自主調査、或いは外務省の指示に従う調査であり、随時的に行われてきたが、後者は、外務省により作られた定期調査制度に基づき、1909年から昭和12年まで毎年各在華外交機関がほぼ中国全土に亘り展開されていた。

外務省と同じく、軍部の方、特に参謀本部も明治初期から中国に於ける新聞調査活動を開始し、情報収集に利用してきた。義和団運動以後、宣伝と諜報に資するため、華北駐屯軍・台湾軍を中心に、中国各地にある諜報主体がよく新聞調査を行い、特に華北駐屯軍は「北支言論機関」について年毎に調査してきた。

外務省と軍部のほかに、満鉄や東亜同文書院も各規模の調査活動を地域的に行ったことがある。

近代中国における日本の新聞調査について、外務省を例にすれば、いくつかの特徴が挙げられると思われる。一、制度的言え、厳密な調査・報告制度が作られ、始終守られて徹底的に実施されてきた。二、時間的に言うと、その調査・報告制度は約三十年間に亘り、このように数十年間連続的に一国の新聞に対する全面的な調査活動は、世界各国には近代日本ほかないと思う。三、地域的に見れば、新疆などの西北地域・チベットを除いて、外務省による調査はほぼ中国全体に亘り展開されていた。

以上の調査による調査報告書が数多く残されており、中国近代新聞史の研究にとって、貴重で豊富な第一級資料であると思うので、まず、外務省による定期調査報告書を収集、整理して、『近代日本在華報刊、通信社調査史料集成（1909-1941）』（全10巻）を編集、出版した。これから、外務省以外の関係資料を中心に編集、出版する予定である。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

『近代日本在華報刊通信社調査資料集成』(全10巻)、許金生主編、線装書局、2014年